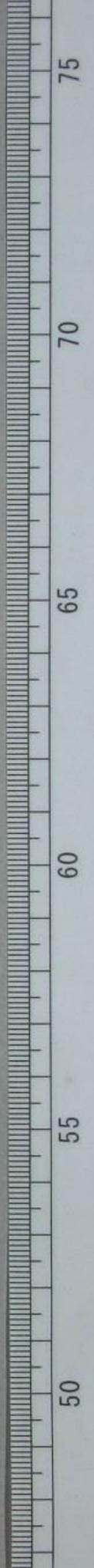
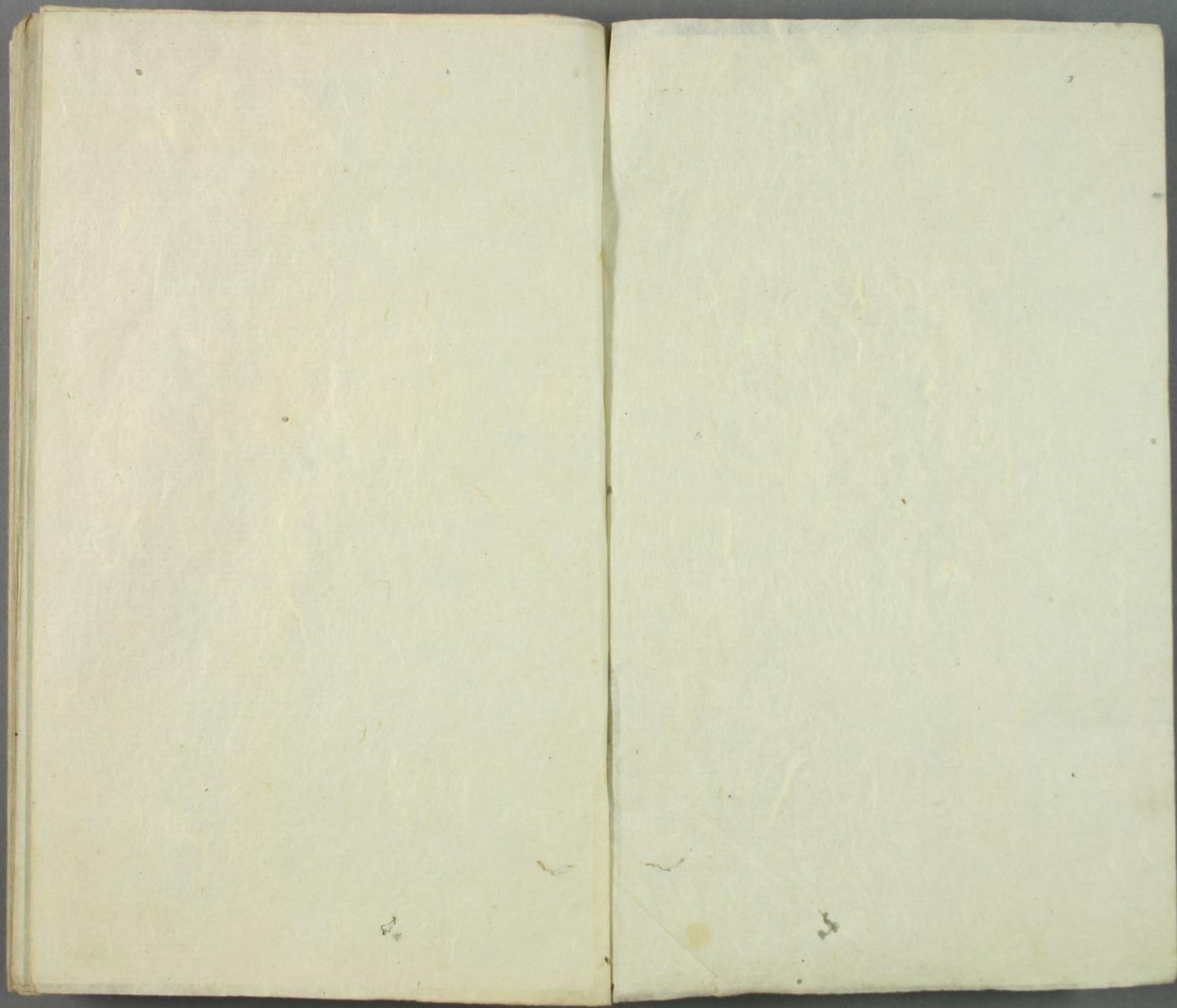


一

慶應元年五月
將軍家御進奏後書付
立誠堂横手老人手記
改寫

特別
U5
15591
3





舟中備己字

世受逆賊毛利大徳为脚仙代

脚進卷五

仙代付与是年申右内侍此仙傳極喜氣

此紀京師出敵言傷之敵力多之勢及此由佐与内下知也

以東此年之春之徒之教多之人馬を動し神汗馬之苦

兵之極大欠の極大是りの為に諸侯之費極少大方正城之春

初方々之形勢更に伏罪之姿に山口之城善法亦仁之極凡

諸君之忠付与夫必死地に入防戦之先悟と云ふは世合及

度し之雖就虜一昨年八月十八日朱種と云ふ礼を破

りたる已なりと云其言七口を欺き或は上使を踏殺し或は

脚大法を破り自國教十ヶ所を以て設諸侯亡命之教



之叔等を扶持し或大詭國之為好ホ豪奪以事
此般件之多も大儀父子切腹之上國餘り後ツ其當礼下
内生ノ交時身七月十九日大崩暴ノ儀大 皇國完群
己未統名等ノ多ノ多方時七枝是而夫等ノ心也況我懐
夷請也頻ノ唱ノ過激罪を欺ニ既及我身ノ死後耳和
睦改ノ外也

天朝 幕府之命、依る不^レ得及我身^ノ均^ニ死^ス不^レ可
言^レ之^レ越^レ渠^ノ誰^レ夫^レ之^レ有^レ之^レ不^レ當^レ時^ノ也^レ研^レ悔^レ悔^レ不
致^レ械^レ位^レ一^レ致^レ以^レ申^レ一^レ大^レ道^レを^レ命^レ死^レ跡^レ君^レ之^レ到^レ外^レ夷^レ兵^レ大
炮^レ之^レ注^レ文^レ致^レ一^レの^レ領^レ有^レの^レ字^レの^レは^レる^レ夫^レ七^レ防^レ二^レ國^レ赤^レ共^レ、^レ也^レ

抄ツ多夫天地人倫之存也三ノ之^レ意^レ也^レ時^レ書^レ多^レ也^レ
ツ世^レ之^レ以^レ交^レ之^レ存^レ之^レ法^レ候^レ各^レ玉^レ境^レを^レ志^レ應^レ接^レ之^レ在^レ國^レ在^レ定
ツ多^レ也^レ攻^レ城^レ理^レ我^レ之^レ事^レツ多^レ夫^レ悉^レく^レ此^レ難^レ中^レ一^レ之^レも^レ踏^レ漢^レ
ツ極^レ仕^レ友^レ友^レ之^レ事^レ脚^レ威^レ風^レ忽^レ四^レ海^レ之^レ溢^レ水^レ所^レ扶^レ回^レ之^レ機^レ以^レ
卷^レ之^レ冥^レ像^レ仕^レ、^レも^レ必^レ然^レと^レ事^レ存^レ左^レ極^レ之^レ事^レ也^レ三^レ四^レ年
己未^レ此^レ國^レ親^レ之^レ辛^レ苦^レ致^レ一^レの^レ致^レ之^レ事^レ也^レ憂^レ壞^レ不^レ良^レの^レ事^レ也^レ
此^レ亦^レ此^レ事^レ也^レ知^レ之^レ上^レ也^レ必^レ此^レ子^レ知^レ之^レ事^レ也^レ思^レ考^レ仕^レ、
此^レ是^レ通^レ延^レ之^レ事^レ也^レ少^レ人^レ致^レ之^レ上^レ大^レ砲^レ水^レ流^レ也^レ少^レ伎^レ虚^レ唱^レ也^レ
此^レ亦^レ此^レ事^レ也^レ詭^レ之^レ時^レ也^レ懐^レ慨^レ一^レ脚^レ威^レ光^レ之^レ衰^レ也^レ憂^レ憤^レ
仕^レ下^レ致^レ一^レ力^レ致^レ一^レ且^レ脊^レ之^レ西^レ大^レ之^レ名^レを^レ負^レ也^レ也^レ及^レ洋^レ思^レ

城之叔事地遂仕し事も云々親きも其の生官發美
一先打の最方丈程累代の苦思一月、事報物等
碇身仕し生裁つし不懐多し事何卒御賢察之上
何事いふ由差加ふ事亦も松年、事
御付し松仕方以候存然形、事止

丑、九月

兄也故
藤田松撰書
松平公雲書

一 慶應元年丑年、丑、九月

今上御覽書 二條殿下書

大插之、事

朕長の父、事

朕長の父、事

朕長の父、事

朕長の父、事

善乎撰汝退、事

御製

五万石の侍の屋の姫
小松千代一歌よと
たのみうへーあ

一 関東御室上之御書付写

毛利大儀父王様此身尾張大納言迄悔悟伏
罪之趣申上知其後激位再登之及加之折
家来外國より大儀大納言等少くも調之上
密商如何之由業確證もるし付道後伝子
任

一 文徳元丑年壬五月

今上御閑簾 二條殿下出大村公景渡之軍

朕旨長門父子不至則汝代之

朕欲召長つ父子汝之無許則誅之

朕欲召群上藩女暫滞京洛依衆言之帰期誅
伐

差手撰汝退而此三喻

御製

五百石の侍の屋の姫小松

千代一歌よとたのみうへーあ

一閱東方小字之書付寫

毛利大膳父子係此年尾張前大納言之悔悟伏死
之趣申出候處甚後激造再終及此加之抄
家本外玉相渡大炮小銃兵器多令取調其上密
商如何之所業確證有之候年迫發仕候事

閏五月

夏元

小松崎郡官

閏五月廿二日於中御所奏列聖後武家傳奏

大樹公如後因解上法

山陵多年及如燕黃忍懼之事

思如此方久二年於大樹公奉御修補及一切面越前

委任為何人何姓大和守如事召連上京云效内丹和

山陵巡拜之如或田畑整頓又去宮社崇守民家等令送立

不守而如新破玉極破可及瘡終之如不失古制不謬也禍

神武天皇以法百有餘所之

山陵遠涉修補成是又成功既

勅使奏遣之三年業之傳

連

敵聞^ル其^レ嘗^シ 沛字^ニ云^フ
天祖^ハ以^テ來^ニ連^テ綿^ク生^ル 皇統^顯然^ク沛^字奉^ル之^レ也^ハ立^テ於^テ千
年^之長^ク 瘼^一時^所修^補 沛^道者^莫大^ニ 沛^懿德^赫
在^耀以^從必^竟大^樹之^功 志^忠謀^且名^祖先^德以^成其^業 沛^道者^莫大^ニ
多^年之^功 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
敵^感心^斜 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
思^出於^前大^政大^臣者^忠 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ

曰^ク 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ

山^陵沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
曰^ク 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
等^成功^勳 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
敵^感心^斜 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
賞^可也^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
曰^ク 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
山^陵沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
上^京 山^陵沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
謁^ハ沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ
山^陵及^成功 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ 沛^道者^莫大^ニ

明初以招平伯者為京都府司馬而到者大狼狽
俄而獲之投交孫所居河上其止急大時者伍
臣亦少年回不古洵也中不獲不傷為老柴回互理
父子中老保回信解軍既三人用人亦回勒頁言楊勇
方不所開惟者之郡也之言楊助孫使勇馬也下二年
九人斗大時回心少亦想之上下原羽危亦楊屋入亦
在外京都仗兄浪華之有餘人言捕以得共中多人
數亦仍偏有之中華一職之也多人數也
○一大樹名之曰京着夕七の象内幕評之也

佛首尾宮殿二代之代物也並當將申々々神号
上下可速 天聖佛臨教中川海之内實者大
不首尾物也の時湯清也物今夜の山階之内村
公正親町西辻柳原殿此我長征後也天正之
大亂也此也此也回之也○用備也回換心也
○津屋名也之書屋也此証也可也事也了也
人數不也○越前日訪人數程也○今夜
關老之云以調也一回甲曾也集内之積り也
一橋公也之為筆○今夜上洛也前二橋唐

佛業名三人合此處名何事之也何如
仕商如共仕仕也何如換之
二條階下以卷中何事之也何事之也
何如也
進發といふ事は角に
勅書
大樹集内之
心持
勅從之

今高進級後
條理
右書付
樹
何如
漸可

開老と大争論の家言云々柳原敬園
老阿訖曲書不強一折の友中
言は徳大寺内村公直立入一應お見も少波上
三友阿老と地也と地也可漸にお見相返上流
相返り大樹不初退也相願持も守之也故也
無之廿三日内実若老之用船分大物先
下坂方坂細多崎馬を即入城表向
志世言二條清為世官大小之地水物物世振
伏見台例之あり下坂の口一橋有能幸多也志
新屋台所修修多崎引強下坂華と大評議

徳本輔家

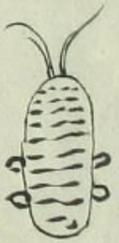
此より以下七月初日之書状写す

一上月廿二日 新延分所右に橋倉と開老上京也五
系 門大議論二條殿下開老と論ハ何ぞ強る長征の
引強長征の致あり各条條理を以 長海罪伏し
代下 昔有永ハ山名細川私之怨恨を以戰事及
連年兵革引強さ大下民之難義とあり先長征より攘
夷強港と事ハ如何と以尋之処開老と書津中ハ此友是非
兵庫開港と 勅免此下言ハ吾人ハ外也義理とあり
是布府之極層本奉とて之処 敵不假外夷也義
理とあり之ら 新延 天下ハ義理を以て此は此
開老と今更強港とハ此の外も何分開港之期限

行届ふ中矣



ヒクニハヒカレド



ユクニハユカレドト

海老島寛字

一 夢 應元丑年八月四日

上方内探

六月下旬長所家老毛利元就道安房毛利出雲守
小倉家之家老名宛、末書、今、秋、再、征、之、為、之、
由、趣、意、以、裁、於、長、蘆、解、之、以、付、之、和、島、亦、以、
及、内、所、以、交、右、在、横、濱、外、國、亦、以、第、四、日、向、古、及、第、五、
日、意、接、之、事、再、征、之、及、以、趣、之、事、由、心、
派、付、折、柄、馬、関、澤、船、之、第、一、船、コ、シ、エ、ル、及、意、接、兼、
合、以、交、右、之、令、小、倉、藩、之、長、所、之、事、情、返、之、直、
公、融、以、儀、之、付、之、事、再、征、之、事、以、列、横、濱、之、お、知、之、外、國、
亦、以、意、接、之、趣、小、倉、家、之、書、函、以、及、一、見、以、趣、コ、シ、エ、ル、
之、書、之、事、以、右、事、之、事、亦、未、達、之、お、知、之、以、日、來、之、事、亦、未、
始

右上有之百實吾及回合口題之文之付小倉藩におおしく全
く長所之事情を計りし再征之旨言上之事支那の在
之旨長藩に返答振舞ひ仁心之言重臣小笠原甲斐
守板立一海城内に出立之要聞先方公用文中意彼等
市論之文は從來小倉藩志に俄支
公道之好むこと 思召臣等折柄右様之旨之付在支
為節取らるる事ありし利解之趣且小倉藩に俄支
何分横濱之商人之外國奉行を擬し之儀也
少用之由中下少少事ありし長所之返答之旨亦言難流之趣
及取敢りし支之儀深固老成申道之甲斐及之由達之上又
此利解之趣之種之有し之儀 詮之支横濱におおしく
接書面言中下之儀 俄に小倉藩論之旨小倉藩に之概

歎息立由

一 英國公使アールゴックと名ハ少略違支尤後摺之趣
由既之儀長進年來通信右兩藩大々貿易之趣一念
有之支を好む旨 申交
公道之建之旨文中前之公平之偏を奉り支道理想は
尤酷向法國一般之交易振下然又上言好條之旨
之由是は之旨也
再進支之一条を案し右端は之旨を案し之旨

八月 四日

道ヲ悔て降参スルヲ待過レ日故ヲ費ありト云々今至
之其後ナク或レ佛リ降参ヲ待過レ日故ヲ費ありト云々今至
終ニハ
大君勸下ノ御免者モ徒子ニナシト某國ノ此レ
不韙ヲ推察政ノ相國臣ヲ哀憐スルハ專ラ人君ノ
天子ヨリ預リ先程ヨリ交納あり之ヲ奉平ヲ乱共仁心却
不仁上成ヘシ情者今日布ノ形勢ヲ考ルニ上ハ

天子ノ威重不宣次ニハ信義ナル條友アリキ國泰平ニ
禍スル者ハ不外此ニヤラシカ故如仰トナシハ素分政府

天子ヨリ國ヲ委任セラトシ奉平ハ世界ノ憂ヲ見テ時宜ク臣子
故ニ各國ト交易ノ條約ヲ立結ニ也素ヨリ條約ヲ執子
ハ日中於テモ

天子及臣民等モ政府ト同意ナラザル時ハ却テ不意ノ擾亂

ヲ醸スヘシ既ニ政府ノ肯キテハ乱ヲ為ス不ノ逆徒ヲ日中改
有ニ於テ逆ニ詰勸方不切届ハ者必ハ其逆徒ヲ撃シテ
強宣シタリ在レハ其初ニ及レテ是政府ヨリ為テ拒制ニ
繪フトモ不有レ然中 英吉利政府ノ不為ヲ考ルニ
交易ヲ為トシテ已ノ利害ノミヲ先ニ追テ物念ヲ生シ
彼ノ心

大君ハ最下無ニ其意あり 鎖港ノ心算ナラト云々
摩也其大君英吉利ノ使ヲ遣フ也何時トナリニテ
國ニ於テ開港ヲ欲スル者意ヲ強ニシテ却テ諸大名ト外國
ト睦交シテ之ヲ鎖港ノ志ニ与テ英ノ政府深ク
疑居ル
右ノ事實ハ其政府ニ於テモ未タ終始ハ力在ハ其其情と觀
定タレ不アリテ斯中ハ故ニ英使ハ其不ノ終慮ヲ曉サ
シカ為上級ニテ右ノ實情ヲ辨明致サシ云々
ハ一也過月某勢也之於て山と陸所寫西事初限云々

以下

大君殿下何レニ我威ヲ振ニ強ク抑下閣君前と申上と
其以英ノ公使物々止坂セントスルヲ延々為成又ハ家述
ルル中大臣ノ甘言也不始有ナルニ併有ハ如キル不始有
ナリ昔者玉ト兵物ヲ開カハ猶又得ナルハ三而口平ハ昔
シタル我軍モ未ク少ク西洋ニハ大國ニテ其大國ノ兵志年
ノ戦怖ヲ経テ新ニ其心必定ノ理也既ニ條約書ヲ為ル
未西洋ニ教養スル心ナキハ必定ノ理也既ニ條約書ヲ為ル
事之其女之度スル時フカラス且蘭港也ニハ我使
事不調各國ノ使物ヲ送ルモ其屬蘭港ヲ改判ニ及下
ハハ各國ノ政府ヲ不義引左スハ我多ノ外他家
累不有ルヲ在等ノ事國ノ太平ニ此入ル者ト申也
此年先利大獲意出テ管テ外國船ヲ安ニ輕便
各一件ニ送之僅ノ軍艦ヲ送向横ヲ略サト知スレテ

大君殿下ノ制止罷退トシテ余係軍艦引上ルカ防
二國ノ及部ニテハ事ヨリ各國政府ノ其及下ニ但モ政府
ノ主業ニ不為各軍艦ヲ引上ル防ヲ設ケルハ必
然ナリ此ノ不強外ニ条約ノ儀ニ付テハ必モ懸断事ト日
布ノ事情ヲ祝示シハ英公使有リトハ既述ノ如ク
ハ其言ヲ待テ居ルカモ無テハ其言ヲ待テ居ルカモ無
ト曰言メ不日条約トモ推事ノ其後物々佛トシテ
其情ヲ以テ中知スルノ条ハ万一本約ノ事ニ付テ
天子大君ト承リ不致為在由言ノ於テハ退テ四公使上
京ノ上推テ

天子の事獨ト公使等ノ所傳ハ既ニ述ベリ其ノ於テ條約事
約事亦アラセシサレ自紀各西ノ物心不詳トシテ
文傳大ニ親睦スルヲ不始有ル時包モ其ノ考時
タル我器及我軍ノ防書亦亦不有傳更スルカ

一 芝野元丑年十月廿日付浪花本付之内

大原郷兵船應接

勅使此 仙舟右之御儀此交 幕府退職之

御許実とあるに御勤一中心は其未御許家之征考職當

彼之取座之坐右應接も幕府分信由座之官是也

幕府存之此 命は幕府存之保幕府存之御交不中上其私に

勤之申上は御上又幕府此 御付は如何に條約

御許と下り多々御接出来不仕言は御上總之御儀之在事御許

相子打と下下坂之出此 宣之在幕府御之 是古官格處御許

其此今之生民塗炭之苦也故下可苦力段之此今般兵人愈

接外藩之居下り多々二年未 幕府之故運之今日限之

之亦與り字以御念之至と御息之有御之御之御之御之

官船下着多々其公御許御之 是古官格處御許

関老一曰條約

勅許之我中幕終之 如 勅許之我中幕終之 如 勅許之我中幕終之 如

紅唐吳祖攝加平位何處井上之如也 勅 勅許之我中幕終之 如

阿教相安為廣比交由功邑之也脚呼區會業比水都之也

天朝分許仰也何也 幕府之水以載之水也情此之也 也

川越原姓也 天朝分許出板倉原 幕府分許也 是

閣光也 也 長之本道家老武人區之也 也

一 芝元丑年十月五日

此禮不斗外國船之序港也故本條約之更改也

勅許有之也 也 幕府之也 也 勅許有之也 也 幕府之也 也

脚許字也 也 退帆不仕也 也 勅許有之也 也 幕府之也 也

室祚之也 也 抱之也 也 幕府之也 也 勅許有之也 也 幕府之也 也

儀之也 也 陛下万民也 也 勅許有之也 也 幕府之也 也

勅許也 也 勅許也 也 勅許也 也 勅許也 也

仕小机江斗一巾在存

十月五

小京是故有
松平越中守
松平肥後守
一松中納言

飛鳥井中納言殿

形至中納言殿

條約之儀

御許字上在在言至當之由至一段可

大指也

前紙之通証 似此之付多言是之條約示之於今之座
有之不應

敷意以付新之元調在何中諸處取評之上出五極之在
成可

右一紙

此交會序は是船渡来付時也

大樹分一極中納言松平把信守松平越中守小京原是岐守
其以照之遮百言上之御牙有之御松到今晩迄之議論會
諸處士等も之御 此談向之處十八九 御許字上在在
下然与取説合儀示之由是前紙之通証也
仰也

右一紙

勅許上在在可

右三通拾遺言之代三仁宰相加勢右内督列座し中

一 慶應元丑年十月

勅 制曰朕雖不肖臨天下萬民之上敬天法祖
殫躬天位大業久成爾來字內形勢之寧
朕少安心今將事家茂尼力內則務而
富強外通交外夷採所獲長捨舊典而
採古善於治家茂合列之備力於德誠之
防名播遠邇臣又子奏凱歌定行
封賞真尔其欽哉

十月十八日

公儀以中福水也水可也

海老系寛元守

大目付

世度格外之此為是也

所籠奪水信名作上江其不容易舟時産舟一橋

中納言殿政勢中輔翼之交以作出外十余也助力

右道格推京表去九十月日作出令為分在石置軍下

面下可不陸上

十月十七日

十月十日

公方様去九二條河改所復途伏見舟十休更より

淀川出舟宗船同日大改舟城日舟名舟宗也世他

面下可不陸上

十月九日

無接
差馬次才出張

石明口討手

一之先石所路才出張

二之先人校才出張

松平備前守
日 單下島
服坂淡路守
日 長坂血槍守

阿部主斗預
日 山田十高

松平右近將監
日 三枝利郎

堀井隱岐守
日 石井八十下

松平因幡守

無接差馬次才出張

先隊惣少校石所路才出張

上之関口討手

一之先差馬次才出張

二之先同討

日 城隼人
松平出羽守
日 源左源太
純伊中納言殿
日 為合納言
阿部進太下

松平隱岐守
日 多我槍守
松平武藏守
日 竹屋守
伊達遠江守
日 水野少左衛門
松平阿波守

無接目所

下之関口討手

一之先小倉出之造在京奈美八人投出法

日 奥平大膳大夫
日 松平左近守在河川主信
日 松平左近守金田三左衛門

日 細川越中守

日 立花左衛門覺助南

日 小笠原左京大夫安藤清康

日 小笠原近江守松平左近守

日 小笠原幸村每夜馬書

二之先差馬次出法

以秋口討手

一之先差馬次出法

二之先同法

日 小笠原文平七

日 松平肥前守酒井岩兵衛

日 松平修理大夫大園神下

日 有馬中務太輔有馬式部

右之道河作出以付松平安藤守松平右近守是
每并源氏守小笠原左京大夫人投色差出
諸之國邑亦有居臨城之可斗了致合以
作出以

一 中軍之角一書隊八廣嶋也出法二書隊下

濟先列之而之門後出法以管之 作出以之

一 芝魚元丑年十月

板倉伊賀守殿出後
陸軍奉行

作内丹後守

濟中軍各軍隊之而之十月十日
出法以管之
表上出法以管之

同十月十五日也立

步兵各隊
牧野伊賀守

騎兵各隊
玉角殿

步兵各隊
戶田肥後守

同並

往山綱本島

城磯部

步兵二大隊

同十月廿日也立

陸軍奉行

作内丹後守

大砲組

玉葉寺
大平渡法下

百文法下

小筒三小隊

大砲一隊

山本各隊下

板橋兵部

木中目付之

内知定方附屬也

西往目付
木井吉久

一 菱無元五年十月十日

水府福定下河用臨靜家以野山事

揚り屋入 踏木安之進 古内政次郎

日中早回行

家格は百上三孫人杖持櫻屋 尾崎若後

此後彼が勅石の法儀と前業有之趣也
公儀の對し云ふ事海に有之は百上之

松浦美治下 日長下 三浦又下 日中早

小湊源一 日冬下 川村十兵衛 日中早

皆川八十吉 日源吾 大牛源平 日中早

三木隆南 日又花 高崎在 日中早

國分存亮 日中早

右行也 將共中知櫻屋親之八揚屋入 作付也

相法之元 曾田春魚 須田律兵衛 山崎也

右行也 揚屋入 作付也

一 丑十月廿五日 夜中 櫻屋

少輔守為 津田忠下 長徳親子下 武友若吉

大竹勤四郎 右賀中 村柳清魚 園田新左

園田哲茂 安友直之進 安友直之進 音見喜代下

右行也 君恒之大儀と云ふ積進之業有之也

付揚屋所居屋也 武田伊賀守 公儀岩科也 前

中付也 公儀也 此等積進也 成死刑

同日分水野哲左 永寧太田院方

右何事と武田伊賀を云暴行中一者八重の
時何故に罷り水野に詳るるに

拜世歌

武後若吉

世の事こそ我大君も中々見え今こそ死出の山路

水野月市への紅葉ももろもろももろありぬ八重の御

今も死出の山路をいそぐ身もおしく君が御代

累の累よ至るももろもろももろの君を千代と

世外極別りれと客十略

中嶋若吉

此書交遊元丑の 兎 十日下り水野の死相察せし如く

御筆の字



此の十月廿五日に死相を察せし如く

此交遊を御物に中々見え今こそ死出の山路

事成程更なる英氣を感ふも一切改る事

去りし御紙の通に先中水野の御代

此御代の中御言様西の 此中成に遊る事此後

此御代成に遊る事此後

此御代成に遊る事此後

一 諸向の 尚今も形勢長紡に征討之に相助

臣職之古通也... 乃... 此...
 雖斗... 牛... 深... 遊...
 以... 論... 後... 心...
 万... 文... 諸... 一...
 以... 烈... 志...
 以... 此... 下... 中...
 此... 結... 氣... 張...
 此... 高... 知...
 右... 記... 志... 事

一 委... 年... 月... 日... 狀

當... 月... 日... 門... 中... 八...
 氣... 長... 上... 下... 人... 外... 十... 六... 及... 帆... 對...
 代... 家... 平... 田... 大... 記... 下... 八... 十... 人... 斗... 乘... 征... 乘... 征... 乘... 征...
 支... 係... 井... 五... 八... 部... 占... 中... 三... 卑... 候... 分... 登... 庸... 惡... 逆... 付... 亦... 先... 回... 志... 中... 謀...
 一... 政... 報... 官... 是... 惟... 之... 仇... 及... 靈... 顯... 在... 之... 通... 也... 回... 志... 者... 之... 勿... 論... 兄... 弟...
 伯... 父... 舅... 之... 折... 罪... 然... 死... 中... 付... 之... 者... 之... 死... 罪... 之... 之... 殺... 或... 百... 人... 余... 老... 婦...
 人... 之... 至... 三... 文... 之... 十... 兄... 之... 由... 右... 抗... 暴... 改... 之... 付... 代... 之... 家... 老... 平... 田... 占... 中... 左...
 此... 交... 對... 之... 押... 皮... 之... 傳... 井... 也... 退... 帝... 之... 是... 惟... 之... 在... 之... 中... 之... 七... 之... 死...
 所... 之... 右... 之... 報... 之... 記... 之... 以... 中... 之... 之... 之... 之...

一 詔分藩于七月比固勇平与中使大诛之遣小由同度支
頭以上与禁洞与市休也

黑由極尸 矢理老柳 高蘇五之印 衣他前犯
建於武夫 河合貴之
右已下士台檢人日以研事之激素也

慶應元丑年十月廿日

增尾之龍吉守

大膳父子名代元戶傳後人
御紀問之痛考

一 尚卷四輪然爭欄之曰大膳父子作性中為能放後強
一 後一層由後 其... 實... 事...
其後... 實... 事...
幕府... 其... 事...
山口下大膳少強... 其... 事...
一 曰冬破... 其... 事...
了記

大樹... 功... 程... 奉... 禮... 告

慶應二宮年正月廿二日

大人保第松守

幕府... 毛利大膳... 父子... 國... 及... 了... 曰... 勿... 侍... 岸... 中...

中東保昌於清德在拍^換...

毛利大京

中東信昌^昭唐島表下...

毛利

毛利漢路

吉川隆和

毛利大經^昭

完戶伯翁

毛利徹和

中東了保昌唐島表下...

石山進^昭山岳山岳角^昭為侯翁百廿百^昭

中東了保昌

神尾尚志^昭

大出^昭

山香馬^昭

日向長河唐平唐^昭為信昌向日^昭

中東

若月準二

大出^昭

戶嶋^昭

慶應二宮年二月

再及從

天朝御抄抄寫

長防而多信望德也

聞食以方今之世患以愛終礼

完滿之身加仁惠早正商之施而益困也

奉安

宸襟之極。仰以事

二月

別性從

天朝御抄抄寫

長防而多信望德也

聞食以方今之世患以愛終礼

完滿之身加仁惠早正商之施而益困也

宸襟之極。仰以事

二月

別性從

天朝御抄抄寫

長防而多信望德也

聞食以方今之世患以愛終礼

完滿之身加仁惠早正商之施而益困也

宸襟之極。仰以事

日高子大坂本状之序

二月十日大坂本状之序

一、^地平福^德... ^{物價}... ^高... ^銀...

中... ^銀... ^文... ^銀... ^文...

少... ^銀... ^文... ^銀... ^文...

... ^銀... ^文... ^銀... ^文...

一長防之儀付有名人別券之通り

比用之越、役、姓名の由、尤陸軍後、

少角銀名海路出張大砲銀名陸地出張

艦名朝鶴北順動丸大江丸と云ふ

支費及夫今吾日為地而者陸地兵名

印刻以軍船名無入明令、以航之由

為月来以遲延、本月中旬迄、

一箇月之百九十九日、

可也、少慮為、吹め、

七、

相傳子之書寫

相傳子之書寫

故秦一也而何邪天下之名切忠之秋也
存兼与死力也居一也中一也
之形一也目前姑息之也
之为一也
此深策也
此深倚也
此深言也

反月

田

